

1986. 6. 19

**九州大学  
大型計算機センターニュース**  
No. 336

福岡市東区箱崎6丁目10番1号  
九州大学大型計算機センター  
広報教育室(TEL092-641-1101)  
内線 2505

**目 次**

1. 昭和61年度(前記)ライブラリプログラム開発計画(追加)について-----1  
 2. ライブラリプログラム開発計画募集要領について-----1  
 3. 文書処理システムODMのレベルアップについて-----3  
 4. 日英自動翻訳システムATLAS-IIの使用について-----5  
 5. N-1ネットワーク講習会の開催について-----11

**1. 昭和61年度(前期)ライブラリプログラム開発計画(追加)について**

センターニュースNo.332以後、承認された開発計画は、下表のとおりです。

開発番号	課 題 名	開発者(所属)	開発期間	開発時間	新規/継続
15. 8	VP用電磁流体粒子コードの開発整備	中島 秀紀 芝 剛史 吉岡 譲 須藤 宏之 志堂寺栄治 (九大・総理工)	1986. 6. 1 ) 1986.11.30	300分	新規

(ライブラリ室 電(内)2523)

**2. ライブラリプログラム開発計画募集要領について**

センターニュースNo.332でお知らせしましたように、ライブラリプログラム開発計画の募集方法を変更しましたが、それに伴い、募集要領の見直し・整備を行い、以下に示す要領で公募することにいたしました。多数の応募をお願いいたします。

プログラムライブラリ委員会 委員長 伊藤猛宏

# ライブラリプログラム開発計画募集要領

## 1. 対象となる課題

- a) 広く各分野で使われる可能性のあるプログラムの開発.
- b) ある専門分野に限られるが、その分野では広く使われる可能性のあるプログラムの開発.

ただし、次のような課題については原則として認めない.

- i) 一般的な手法が確立されていなくて、研究的性格の強い課題.
  - ii) 既に登録されているプログラムの保守、デバッグのための課題.
  - iii) 他センター等のプログラムの書替え・移植において、その作業が極めて容易であると考えられる課題.
- ## 2. 公募は年2回(前期, 後期)とする. 申請された課題は、締切の翌月のプログラムライブラリ委員会(以下, 委員会)で審査する. ただし、開発に際し、多数の長大ジョブの実行が必要であると考えられる場合は、原則として前期に申請し、繁忙期に入る前(11月位)までに開発を終了するものとする.

前期締切: 2月末日(開発開始は 4月1日予定)

後期締切: 8月末日(開発開始は10月1日予定)

採用された課題は、センターニュースで広報する.

## 3. 開発者の義務

- i) 開発終了後、早い時期にライブラリプログラムとして登録および公開するものとする.
- ii) 利用者のための使用マニュアルを作成する. これを終了報告書として委員会で審議する.

## 4. 開発に係る経費等

- i) 採用された課題に対して、ライブラリ開発用の登録番号を割当て、それに係る計算機利用負担金は、センターで負担するものとする. 計算機利用負担金の限度額は、申請時の計算時間により別に定める.
- ii) 計算機利用負担金以外で開発に必要な旅費、雑費等は、この開発計画による負担の対象とはしないので留意すること.

## 5. 開発作業

- i) ライブラリ開発は年度毎(4月~翌年3月)とする. 開発継続の場合には、十分な資料とともに継続申請書を提出する.
- ii) 開発継続の場合にも、完成した範囲内で登録手続きをとることが望ましい.
- iii) 同一課題での継続は、原則として3年までとする.

## 6. その他

- i) 申請書に不明な個所があったり、申請計算時間が過大であると思われる場合や、開発経過が不首尾であると考えられる場合は、委員会にて口頭説明を求めることがある。
- ii) サブルーチンまたは関数副プログラムのライブラリの場合、既に登録してあるものと呼び出し名が同一にならないように注意すること。

## 3. 文書処理システムODMのレベルアップについて

6月23日(月)より標記システムをレベルアップ(V10/L40)します。これに伴い、以下のような変更点および機能追加があります。詳細については、マニュアル[1, 2]を参照してください。なお、以下で下線は、入力した部分を示します。

### 1) 変更点

- a. 文書ライブラリの指定法が簡略化され、初期パネルで行える。また、前回指定したデータセット名が、次回開始時に表示される。
- ・文書ライブラリの新規作成の時は、以下のようにそのデータセット名を指定し、処理選択として'8'を選ぶ。すると、新規ライブラリパネルへ移る。

V10L40-----< 文書処理システム初期パネル >-----	
処理選択 ==> <u>8</u>	ユーザID- A79999A 時刻14:16
0 属性定義	- 文書処理システムの属性の定義
1 文書作成	- 新規文書の作成・編集
2 文書更新	- 既存文書の更新
3 既存文書の処理	- 文書の表示, 印刷, 削除, 複写, 移動, 結合, 翻訳, メール発信, 文書の取出し, 文書情報表示, 文書情報変更
4 メール受信	- 受信メール(個人宛, メールボックス宛, 掲示板)の処理
5 その他の機能	- 文書の登録, 文書情報一覧印刷, 発信簿処理, 受信簿処理, 宛先リスト処理, 印刷依頼取消し, 受信状況確認
6 使用方法の説明	- 文書処理システムの使用方法の説明
7 PFD	- PFDの呼び出し
8 新規ライブラリ	- データセットが新規の場合選択
X 終了	- 文書処理システムの終了
データセット名 ==> <u>ODM.TEXT</u>	
文書識別番号 ==> ( 5桁の数字)	
'END'キーを押すことにより、文書処理システムは終了する。	

- ・文書ライブラリを変更する時は、初期パネルに表示されているデータセット名の必要な個所を変更するだけでよい。すると文書一覧パネルへ移る。なお、初期パネルで同時に文書識別番号まで指定すれば、直ちに、環境定義パネルへ移る。

```

V10L40-----< 文書処理システム初期パネル >-----
処理選択 ==> 2
                                         ユーザID- A79999A 時刻14:16
0 属性定義 - 文書処理システムの属性の定義
1 文書作成 - 新規文書の作成・編集
2 文書更新 - 既存文書の更新
3 既存文書の処理 - 文書の表示, 印刷, 削除, 複写, 移動, 結合, 翻訳,
                  メール発信, 文書の取出し, 文書情報表示, 文書情報変更
4 メール受信 - 受信メール (個人宛, メールボックス宛, 掲示板) の処理
5 その他の機能 - 文書の登録, 文書情報一覧印刷, 発信簿処理, 受信簿処理,
                  宛先リスト処理, 印刷依頼取消し, 受信状況確認
6 使用方法の説明 - 文書処理システムの使用方の説明
7 PFD - PFDの呼び出し
8 新規ライブラリ - データセットが新規の場合選択
X 終了 - 文書処理システムの終了

データセット名 ==> 'A79999A.TEST.TEXT'
文書識別番号 ==> ( 5桁の数字)

```

- b. 文書一覧パネルで、文書番号の選択欄に文書識別番号を指定することで、文書選択ができる。なお、文書識別番号の先頭に " S " を指定する従来の方法も使用できる。

```

V10L40-----< 文書一覧 >----- 行 000001 欄 001080
文書番号の選択 ==> 2                      移動量 ==> PAGE
                                         文書数:2
文書識別番号      文書名                      ページ数
00001      ODM センターニュース 86.05.23          7
00002      ATLAS-2 (日本語)                1
*** 終り ***

```

- c. ライブラリ指定パネルは、本センターでの利用には不必要なので省略されている。
- d. ダイナミックローディング指定欄が省略されている (常にダイナミックローディングとなる)。
- e. 環境定義、ページ形式、印刷形式の各パネルの標準値が、本センターの運用に沿うよう変更されている。
- f. 画面の縦のスクロール量の初期値が、従来のHALFからFULLに変更されている。
- g. 文書編集集中に、TSSコマンド、PFDが使用できる。ただし、このためには、あるPFキーに '>TEST' を割付けておき、そのPFキー押下により開始する。終了はENDキーによる。

## 2) 追加機能

- a. ODMで作成した文書を、日英自動翻訳システムATLAS-Ⅱを呼び出すことにより英訳できる。これについては、次項で述べるので参照されたい。

### 参考文献

1. 計算機マニュアル FACOM OS IV ODM使用手引書 (70SP-6010-4), 富士通㈱.
2. 計算機マニュアル FACOM OS IV FDMS/JEF使用手引書 (70SP-7662-1), 富士通㈱.

(ライブラリ室 電 (内) 2523)

## 4. 日英自動翻訳システムATLAS-Ⅱの使用について

ODMのレベルアップに伴い、標記システムが使えるようになりました。このシステムは、ODMで作成した日本語文書を英語に翻訳します。ただし、ODM配下で動作するため、ODMの使用可能な端末からの利用に限ります。詳細については、マニュアル [1] を参照してください。なお、以下で下線は、入力した部分を示します。

注) 使用時は、LOGON時にリージョンサイズ4096KB以上指定する必要がある。

### 1) 対話型での翻訳

ODMで処理選択として ' 1 ' 文書作成、または ' 2 ' 文書更新を選び、文書編集画面にする。

文書名	ATLAS-2 (日本語)	0001	ページ	移動量
コマンド	==> <u>TRANS</u>			縦 ==> FULL
(001)			清書 モード	横 ==> HALF
	-----10-----+-----20-----+-----30-----+-----4			
目的	ATLAS II (日英自動翻訳システム) は、日本語を英語に翻訳するシステムであり、国際化の進展とともに増大している翻訳需要に応えることを目的としている。 翻訳の対象としては、科学技術文書のように記述の明確な文章を想定している。ATLAS II を利用することにより、特に大量の文書の翻訳業務において、次のような効果が期待できる。			
効果	1) 翻訳時間の短縮 一般に翻訳業務の多くの工程と人手を経るものであり、非常に時間がかかる。ATLAS II を利用することにより、工程の大幅な短縮が可能となる。			
	2) 均質な翻訳 大量文書の場合には、複数の人が分担して翻訳することが多いが、翻訳者によって訳文の質や用語の使い方がまちまちになる。この結果、調整と仕上げに手間とお金がかかる。ATLAS II では、大量の文書を、短時間に、一様な品質で、翻訳することができる。			

TRANSコマンドにより翻訳エディタを起動する。  
対訳画面となる。

↓

ENTER

文書名 ATLAS-2 (日本語)

0001 ページ

コマンド ==> @T

日英翻訳 モード

- 1 目的
- 2 ATLAS II (日英自動翻訳システム) は, 日本語を英語に翻訳するシステムであり, 国際化の進展とともに増大している翻訳需要に応えることを目的としている.
- 3 翻訳の対象としては, 科学技術文書のように記述の明確な文章を想定している.
- 4 ATLAS IIを利用することにより, 特に大量の文書の翻訳業務において, 次のような効果が期待できる.
- 5 効果
- 6 1) 翻訳時間の短縮
- 7 一般に翻訳業務の多くの工程と人手を経るものであり, 非常に時間がかかる.
- 8 ATLAS IIを利用することにより, 工程の大幅な短縮が可能となる.

@Tコマンドで翻訳を開始する.  
翻訳環境定義パネルとなる.



ENTER

-----< 翻訳環境定義 >-----

原言語辞書名 (日本語)	パスワード
基本 ==> 'PPL. ATN. JWDDICT'	==>
専門1 ==>	==>
専門2 ==>	==>
専門3 ==>	==>
専門4 ==>	==>
目標言語辞書名 (英語)	パスワード
基本 ==> 'PPL. ATO. EWDDICT'	==>
専門1 ==>	==>
専門2 ==>	==>
専門3 ==>	==>
専門4 ==>	==>
トレースファイル名 ==>	
(既存のファイル名を指定して下さい)	
1文当りの最大翻訳時間 ==> 4 (秒)	

1文当りの翻訳時間 (5秒程度見当) を入力する.  
翻訳が開始され, 英訳が右半分に表示される.



ENTER

文書名 ATLAS-2 (日本語)  
コマンド ==>

0001 ページ

日英翻訳 モード

1	目的	Purpose
2	ATLAS II (日英自動翻訳システム) は、日本語を英語に翻訳するシステムであり、国際化の進展とともに増大している翻訳需要に応えることを目的としている。	The response to the demand the system of (System of English automatic translation on the day) b English and increased with the progress of
3	翻訳の対象としては、科学技術文書のように記述の明確な文章を想定している。	A clear sentence of the description is assumed as the object of the translation.
4	ATLAS IIを利用することにより、特に大量の文書の翻訳業務において、次のような効果が期待できる。	The following effects can be expected in the amount of specially document by using ATLAS II.
5	効果	Effect
6	1) 翻訳時間の短縮	1) Shortening of trans

PF3キーで翻訳を終了する。ODMの文書編集画面に戻る。  
この時、以下のように日本語原文と英訳文が1文ごとに対応  
なったものが現れる。これを対訳文書と呼び、原文書(日本  
語原文のみ)と区別する。

↓

PF3

文書名 ATLAS-2 (日本語)  
コマンド ==>  
(001)

0001 ページ

移動量

縦 ==> FULL

清書 モード

横 ==> HALF

-----+-----10-----+-----20-----+-----30-----+-----4

目的

Purpose

ATLAS II (日英自動翻訳システム) は、日本語を英語に翻訳するシステムであり、国際化の進展とともに増大している翻訳需要に応えることを目的としている。

The response to the translation demand the English automatic translation on the day) b English and increased with the progress of

翻訳の対象としては、科学技術文書のように記述の明確な文章を想定している。

A clear sentence of the description is assumed as the object of the translation.

ATLAS IIを利用することにより、特に大量の文書の翻訳業務において、次のような効果が期待できる。

The following effects can be expected in the amount of specially document by using ATLAS II.

PF3キーで文書編集を終了させると、編集後処理パネルとなるので、文書の保存、印刷等を行う。



PF3

```

-----< 編集後処理 >-----
文書更新-----
処理選択 ==> 2

1 表示          - 文書の表示
2 保存          - 私有・共用ライブラリへの保存
3 メール発信   - 文書のメール発信
4 印刷          - 文書の印刷
5 再編集       - 文書の再編集
6 グラフ・図形処理 - グラフ・図形の組み込み処理
7 置換え       - 元の文書との置換え
    
```

注) 文書の置換えを行うと原文書（日本語原文のみ）はなくなるので注意すること。

コマンドの説明

コマンド名	機能	オペランドの形式
TRANS	翻訳モードの環境を変える	[開始ページNo [終了ページNo] ]
@T	翻訳する	[開始文No [終了文No] ] [NOR]

2) 一括（バッチ型）翻訳

ODMで'3'既存文書の処理を選び、既存文書に対する処理パネルにする。

```

-----< 既存文書に対する処理 >-----
処理選択 ==> H

      B - 表示          P - 印刷          E - 文書の取り出し
      C - 複写          T - 移動          F - 文書情報変更
      D - 削除          G - 結合          I - 文書情報表示
      M - メール発信    H - 翻訳          空 - 文書一覧表示
    
```

'H'翻訳を選択する。  
文書一覧パネルとなる。



ENTER

```

V10L40-----< 文書一覧 >----- 行 000001 欄 001080
文書番号の選択 ==> 2                移動量 ==> PAGE
                                       文書数:2

文書識別番号      文書名                ページ数
00001  ODM センターニュース  86.05.23      7
00002  ATLAS-2 (日本語)                1
*** 終り ***
    
```



翻訳したい文書を選択する。  
翻訳環境定義パネルとなる。

↓

ENTER

既存文書の処理-----< 翻訳環境定義 >-----	
文書名 : ATLAS-2 (日本語)	
日本語辞書名	パスワード
基本 ==> 'PP1. ATN. JWDDICT'	==>
専門1 ==>	==>
専門2 ==>	==>
専門3 ==>	==>
専門4 ==>	==>
英語辞書名	パスワード
基本 ==> 'PP1. ATO. EWDDICT'	==>
専門1 ==>	==>
専門2 ==>	==>
専門3 ==>	==>
専門4 ==>	==>
退避ファイル名: 'A79999A. ODMTEMP1. N00001'	
(翻訳結果が退避されるファイルのデータセット名です)	

翻訳条件指定パネルとなる。

↓

ENTER

既存文書の処理-----< 翻訳条件指定 >-----	
文書名 : ATLAS-2 (日本語)	
翻訳条件	
翻訳範囲	
開始ページ ==> 0001 (1-9999)	
終了ページ ==> 0001 (1-9999)	
再編集 ==> 1 (1:有 2:無)	
文書置換 ==> 2 (1:有 2:無)	
1文当りの翻訳時間	==> 20 (1-99 秒)
対訳文書印刷	==> 1 (1:有 2:無)
ジョブ文指定	
==> //A79999AA JOB CLASS=A	
==> /**	
==> /**	
==> /**	

ジョブ文を入力する。  
印刷出力先パネルとなる。

↓

ENTER

```

既存文書の処理-----< 印刷出力先 >-----
出力先 ==> 2
  1 端末..... 端末プリンタ名 ==> IF4E      文書識別番号:00002
  2 センタ..... 出力クラス    ==> 0
複写
  印刷部数          ==> 1          (1-255)  |  | 1 ==> 0  |
  ページ複写数..... |  | 2 ==> 0  |
  割付開始ページ番号 ==> 1          (1-9999) | グ | 3 ==> 0  |
  印刷ページ範囲      (1-9999) | ル | 4 ==> 0  |
  開始 ==> 0001          終了 ==> 9999 |  | 5 ==> 0  |
  印刷文書形式 ==> 1          | プ | 6 ==> 0  |
  1 標準    2 印刷時指定 |  | 7 ==> 0  |
  印刷方式 ==> 1          |  | 8 ==> 0  |
  1 バッチ    2 オンライン
  対訳文書印刷形式 ==> 1          (対訳文書以外は無指定)
  1 左右対訳    2 訳文    3 原文    4 全文
  ジョブ文指定 (バッチ印刷方式時有効)
==> //A79999AA JOB CLASS=A
==> /*
==> /*
==> /*

```

対訳文書印刷形式欄で適当なものを選ぶ。すると、  
 翻訳ユーティリティによる翻訳のためのジョブが  
 バッチジョブとして起動される。

↓

ENTER

参考文献

1. 計算機マニュアルFACOM OS IV/F4 MSP ATLAS II使用手引書 (78SP-576 1-1) 富士通株。

(ライブラリ室 電 (内) 2 5 2 3)

